



International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 21 No.3. 2020年 12月

驚宮卓話

大統領選からアメリカを想う

太田敬雄

1960年夏にアメリカに留学した私にとって、その年の最も「衝撃的」なニュースはケネディ・ニクソンの大統領選挙でした。選挙には全く関心のなかった私にとって大学の友人たちが大統領選挙で熱く盛り上がる様子は驚きでした。

ケネディ・ニクソン選挙の特徴の一つは、両候補が初めてテレビでの直接討論会に臨んだことでした。後に「テレビ写りが良かったケネディが勝った。」と言われたものです。

1940年代末にアメリカのテレビ放送が本格化し、50年代は後に「テレビの黄金時代」「テレビドラマの黄金時代」と呼ばれました。まだ生放送がメインで、ニューヨークのスタジオから白黒の番組が流されていました。50年代末になると録画が出来るようになり、同じ頃にフィルム撮影された番組も放送されるようになると、ドラマのスタジオはニューヨークからハリウッドに移り、「黄金時代」は終焉を迎えました。

そのタイミングでケネディ・ニクソンの討論会が放送されたわけです。ケネディにはテレビアドバイザーとして黄金時代に活躍したテレビドラマ演出家、フレッド・コーが付いていました。役者を魅力的に映す術を知り尽くした人物です。恐らく、ケネディ候補は役者達がしたように唇を青く塗って白黒のテレビで若々しく映えるようにしていたのではないのでしょうか。

次の大統領選挙は1964年、東京オリンピックの年の年でした。夏の東京オリンピックは

新聞などで小さく取り上げられただけで、秋のジョンソン・ゴールドウォーターの大統領選挙がこの年のアメリカ最大のイベントでした。私はその時期に教養科目の「政治学」を履修しており、大統領選挙の実況解説のような授業を受けました。この授業で私はアメリカが「合衆国 (United States)」である事の意味を教わりました。

アメリカの連邦制では多くの権限が州に有ります。大統領選の場合、候補は各州で立候補し、その州の定める形で選挙に臨み、選挙人を獲得する。各州の選挙人が、大統領を決めるために連邦の選挙に臨み、大統領を選出するのです。

今、トランプ大統領が狙っているのは各州の選挙人を味方にする事でしょう。「12月に選挙人団が民主党候補のバイデン前副大統領に投票すれば政権を手放す」とはそう言う事だと思います。

州が権限を持つのは大統領選挙に限りません。例えば教育。私が1966年にオハイオ州で教師になった時、合衆国には教育省は存在せず、教育は州によって異なりました。オハイオ州では義務教育は18歳まででしたが、14歳までの州もありました。1979年に教育省ができてからも、教育に関する細かいことは州と学区が決めています。

例えば警察。未だに日本の警視庁のような国の機関としての「警察省」は存在せず、州や郡、市などが独自の警察を持っています。

そこにアメリカの多様性が有るのですが、1960年から今日までの流れを俯瞰してみますと、合衆国の権限が段々と大きく強くなり、自治体の権限が縮小される傾向が見て取れます。その事に対する対立や苛立ちも今回のアメリカ国民の選挙に関する行動に見て取れるような気がしています。

あれから 18 年

坂本隆幸



坂本隆幸氏

18 年前の 2002 年夏、初回の多文化交流会に参加させていただいた者です。早 18 年が経過してしまいましたが、どうしてもあの夏が忘れられず、小説にしてみたいという思いから、今更ながら太田先生と連絡を取り、資料のご提供について相談させていただきました。これがきっかけとなり、ニューズレターへの寄稿のご依頼をいただきましたので、少し当時を振り返りつつ、今につながる話をしてみたいと思います。

私の交流会参加は決して「自発的・積極的」なものではありませんでした。ゼミの先生に誘われるがまま、「なぜ自分のような人付き合いの苦手な者が中国・韓国の学生との交流会に参加するのだろう」という疑問を抱えながらの参加となりました。友達が多かったとは言えない自分を多文化交流会などという場にお誘いいただく意味が全く分からなかったのです。

そんな私は初日からその雰囲気には圧倒されてしまいます。中国・韓国の学生、自分と同じ大学の他の参加者、交流会にご協力いただいた方々、それら全ての方が相互理解を深め、最高の交流会にしようという意欲と意識に溢れていました。

他人ごとのように書いていますが、そんな彼らに触れ、私の中でも感情や意識が大きく変わっていきました。決して「参加したのだから何かを成さねばならない」という義務感・使命感からではなく、自分や日本についてあれこれ訊く姿勢をやめない彼らに対し、敬意を持ってもっと彼らのことを知りたいと思うようになったのです。

多文化について理解を深めるという点において彼らはひたすら純粋でした。そして私も、日に日に彼らの文化や彼ら自身について「知りたい」という思いが強くなっていったと思います。

9 日間という短い期間でしたが、終わりを迎えるころには「終わってほしくない」という思いと、「初日を迎える前からもっと真摯に交流会と向き合うべきだった」という反省の念を抱いたことを今でも鮮明に覚えています。それだけこの交流会は、人と人を、多文化と多文化を心でつなぐ貴重な機会だったので。交流会が始まる前の私にもこの思いがあればと思うと、非常に悔やまれてなりません。

これから多文化交流会に参加をされる方・参加したいとお考えの方へ、私だから言えることをお伝えします。自分の殻は出発前に破ってきてください。自分の偏見は初日を迎えるまでに捨ててきてください。持っていくのは感謝の気持ち、相手に対する敬意と「知りたい」という好奇心、あとはほんの少しの勇気だけで充分です。もちろん、今年のようにオンライン開催でなければ、必要数の着替えをお忘れなく。太田先生をはじめとする多くの方のご尽力・ご協力のおかげで開催されるこの多文化交流会は、皆さんが想像する以上に大変貴重で、有意義で、私のように今後の人生に大きく影響するものになると思います。1分1秒を無駄にしないという思いを常に心に抱きながら、ぜひこの何物にも代えられない経験をしてほしいと心から思います。

最後に、18 年の時を経てこれを言うのは今更過ぎて大変恐縮ですが、太田先生をはじめとする全ての方に改めて感謝の意をお伝えいたします。今後もこの交流会がずっとずっと続いていきますように。



第一回の多文化交流会「ぐんまは国
外、県外三大学の学生参加を得て
実施しました。坂本氏は高知大学
からの参加でした。



オンライン多文化交流

群馬県立女子大学 3年 高草木美佑

あらいと共に「多文化交流 in ぐんま 2020 夏」の共同代表を務めました、
ぴよです！

例年は二泊三日で行われている多文化交流。今回は「オンライン交流」とい
う新しい形になりました。準備を始めた当初は、そもそも「多文化交流 in ぐん
ま 2020 夏」を開催することができるのかどうかというところからのスタート
で、スタッフもたくさん不安がありました。しかし、不安があったのは参加者の
みなさんも同じだったと思います。



高草木美佑

今まで多文化交流に参加したことがある方もそうでない方も、オンライン交流と
いう新しい交流の形に戸惑い躊躇したかもしれません。それでも、オンライン交流への参加を決め、同じ
時間を共有してくださったことがとてもうれしかったです。

イベント当日は、インターネット環境など多少の機械トラブルはありましたが、無事にオンライン交流
を終えることができ、ほっとしました。準備期間や当日も含め、今までのスタッフとしての経験が通じな
い場面が多くとても大変でしたが、オンラインイベント運営を通して自分自身のスキルアップにもつなが
り、何よりもイベント終了後には大きな達成感でいっぱいになりました。研究所としても初めての試みに
携われたことに、心から感謝いたします。もちろん直接会うことが一番だけれど、「国を超え、お互いを
知り、手をつなぐように心が繋がる。」という多文化交流の軸の部分はオンライン交流にも通じている！
ということを証明できたように思います。今回の交流が参加者のみなさんの「ともだちの輪」が広がるき
っかけになればうれしいです。

オンラインで
オムニバス講座
参加費無料
共通テーマ：私の住む世界
まずは聞いてみる・感じてみる・考えてみる。
そこから、あなたの世界を少し広げてみませんか？

- 11月18日(水) 午後8時～9時半 講師/太田敬雄
空中在任。英中でアメリカに留学。オハイオ州での高校教員を定切りに70歳を過ぎるま
で日本各地の高校や大学で教職に就く。二重国籍留学は米国共にアメリカで2年。2003
年に引退。
- 12月2日(水) 午後7時～8時半 講師/垣越千沙
スペイン在任。新島学園高校卒業生。シカゴの Loyola 大学卒業後は同市にある保
険会社に勤務。1年後東京生活で1年。パルセロナ大学でスペイン語を学び、翻訳仲
の会社に勤務。現在育児中。
- 12月16日(水) 午後8時半～10時 講師/朝倉奈緒美
アメリカ在任。群馬県立女子大学在学中に、多文化交流 in 教職に参加。一般企業に就
職の後、アメリカの大学院に入学。多文化交流 in USA も開催。現在ハーバード大学日
本研究センター。
- 2021年1月13日(水) 午後8時～9時半 講師/齊木隆太郎
スウェーデン在任。大学卒業後、目的定光の教育に携わる。青年海外協力隊としてスウェー
デンの自然史博物館に赴く。現在ストリートチームドレンの運動傷害治療の教育プログラムの
NCO 設立を目標とする。
- 1月28日(水) 午後8時～9時半 講師/入澤京子
イスラエル在任。ヘアメイクとヨガの勉強をして1995年にヨガ教員に養成し、結婚。
現在は西リウヤカ地方で一日一泊限定の日本旅館を経営。かたがらヘブライ語通訳やフ
ォインの編纂作り。
- 2月10日(水) 午後8時～9時半 講師/菅ヶ谷マコ
インドネシア在任。大学時代にマラン教員大学に留学。後に群馬大学大学院で文化人類学
専攻。イスラエルに留学。結婚。働きながら多文化交流 in マランのキーパーソンとして活躍。

オムニバス講座

今年実施出来なかったらと思っていましたが、オンライン多文化交流の成功
を受け、オムニバススタッフの渋谷さんの提案でオンラインでのオムニバス講座
を実施する事になりました。

オンラインなら県境も国境も関係なく集
まる事が出来る！そこで国外で生活す
る方々に講師をお願いして「私の住む世
界」を共通テーマにした気楽な懇談会で
す。

参加ご希望の方は研究所のホームページ
から参加申込をしていただけます。(定員
は25名。まだ数名は参加可能です。)

<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

なお、この講座では Zoom を使用します。

～オンライン多文化交流：次に向かって～ p.3 で高草木美佑さんが9月のオンライン多文化交流報告を書いてくれましたが、今、2021年2月の第2回オンライン多文化交流の企画が動き始めています。第2回は群馬、インドネシア、韓国の学生たち15名がスタッフとなって、一緒にプログラムを作り上げるとのことになりました。スタッフ・ミーティングもZOOMを使って国境を越えての会合です。これも、コロナ騒動の中で初めて生まれることのできたIIMSの新たな「宝」だと思います。スタッフの若者がどのようなプログラムを造り上げてくれるのか、今からワクワクしています。

ご寄付のお願い：新型コロナウイルスは国際交流をはじめとしたIIMSの多くの活動に影響を与えております。今も苦しい状況に置かれていることには変わりありませんが、「月500円」というクレジットカードによるご寄付を選択して下さる方も少しずつ増えています。感謝です。（自動決済はいつでも停止可能です。）さらに活動を支援して下さる方が増えることを願っています。

会費のお支払い・ご寄付は「クレジットカード」または「郵便振替」で！

【クレジットカードの手続き】



左記QRコード、もしくは下記URLからアクセスして頂き手続き・ご登録ください。
アクセス先のページから「会費の支払い」と「ご寄付」に分かれておりますので、それぞれのページへ進んで頂き、手続きをお願い致します。

(<http://www8.wind.ne.jp/mthc/iims-cardannai>)

【郵便振替】

下記口座にお振込み下さい。

●加入者名：国際比較文化研究所

●口座番号：（普通）00510-0-61974

※ゆうちょ銀行から振込可能な口座です。

※通信欄に「会費」または「寄付」とご記入ください。

会費・寄付＜敬称略・順不同＞（9/1～11/28）、カード振込は10月末まで

会費並びにたくさんのご寄付を有難うございます。皆様に支えられて、国際比較文化研究所は今後とも「平和な地球社会の実現」に向けての諸活動に邁進して参ります。

賛助会員入会：小島明子、坂本隆幸、

会費：遠間徹也、鈴木布美子、佐藤貴雄、田中京三、金井美由紀、金井優季、小島明子、高山昇、小川美幸、清水久美、長谷川貴尚、長谷川路子、坂本隆幸、野口紀子、細川忍、岡田一恵、星野富雄、星野敏子、森泉寿義雄（21）、

寄付：鈴木布美子、高橋美一、金井美由紀、村井田和夫、菅ヶ谷由美子、坂本隆幸、大澤直子、内野春香（毎月）、藤本恵大（毎月）片岡謙（毎月）、根岸大輔（毎月）、野口紀子、Rosdiana Febriyanti（毎月）、阿部洋一、増井杏奈、田村珠里（毎月）、
*注：（毎月）はカード振り込みによる毎月のご寄付です。

編集後記：◎経費削減のため、先号からニューズレターのメール送信を開始しています。皆様のご協力に感謝です。メール配信をご希望の方はご連絡下さい。totatakao.iims@gmail.com
◎コロナ騒動はまだ続きそうですが、その中でも私たちは新たな活動を見出し、力強く前進しています。世界の人々が違いを受け入れ合いながら友達になることを夢見てIIMSの活動を続けて行きたいと願っています。（敬）

発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3
電話：027-382-5998 FAX:027-382-6393
研究所ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>
メールアドレス：totatakao.iims@gmail.com
まなばる：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>
メールアドレス：mail@manapal.jp
郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所
口座番号 00510-1-61974